

1 単元名 Lesson 8 Motala and Landmines / VISTA English Communication I (三省堂)

2 単元目標

- 受動態を用いた言語活動を積極的にを行い、コミュニケーションを図ろうとする。
(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
- 受動態を用いて自分の身近な暮らしや社会の暮らしに関わる場면을説明することができる。
(外国語表現の能力)
- 英語を読んで、タイとミャンマーの国境付近で、ミャンマー内戦時に埋められた地雷を踏み義足となったゾウや、タイ人とゾウとの関係について理解することができる。
(外国語理解の能力)
- 受動態の文構造・意味を理解する。
(言語や文化についての知識・理解)

3 単元について

(1) 教材観

本単元では、タイにおけるゾウと人間の深い絆が題材となっている。地雷が動物にも被害を与えていることを知り、地雷禁止に向けてどうすればよいのか、また地雷の被害を受けた動物や人間をどのように支援しあげられるかについて考えさせるきっかけを与える。言語材料として、受動態を扱う。

(2) 生徒の実態

本学級の生徒は、基本的な英語の文構造の理解が十分ではなく、“Visit Kyoto by many people.” や “This cat washed by John.” のように、断片的にしか理解できていない生徒もいる。これまでの指導で、原稿を書かないで、自由に意見交換するのは難しいことが分かっている。基本的な文構造を理解して文を書くように意識させることで、本単元で扱う受動態を使って、自分の意見や考えを表現させたい。

(3) 指導観

文法指導(受動態)において、3つのステップに分けて行う。最初は主語と動詞だけのシンプルな文で表現できるようにする(Step 1)。その文の後ろに「どこで・いつ・どのように・なぜ」といった情報を付け加えられる工夫をする(Step 2)。最後に、具体的な使用場面を設定して、その文の後に文章を続けさせ、表現の幅を広げられるようにする(Step 3)。生徒が、自分の考えを適切な文に表し、意見交換ができる力を身につけるため、段階的に書く活動を工夫する。

4 指導と評価の計画(9時間扱い)

時	学習の内容	関	表	理	知	評価規準(評価方法)
1	文法(受動態)の理解	○			◎	・受動態を用いた言語活動に積極的に取り組もうとしている。 ・受動態の文構造・意味を理解している。 (行, ノ)
2	文法(受動態)の理解		○		◎	・受動態を用いて文章をつくらることができる。 ・受動態の文構造・意味を理解している。 (行, ノ)
3	Part 1の導入 本文の概要理解	○			○	・本文内容に興味を持ち、受動態を用いた言語活動に積極的に取り組もうとしている。 ・本文の概要をつかむことができる。 (行, ワ, ノ)
4	Part 1の本文理解				◎	・英語を読んで、タイのゾウと人間の関係について理解することができる。 (ノ, 定)

5	Part 2の導入 本文の概要理解	○		○	<ul style="list-style-type: none"> 本文内容に興味を持ち、受動態を用いた言語活動に積極的に取り組もうとしている。 本文の概要をつかむことができる。 (行, ワ, ノ)
6	Part 2の本文理解			◎	<ul style="list-style-type: none"> 英語を読んで、地雷を踏んだモタラについて理解することができる。 (ノ, 定)
7	Part 3の導入 本文の概要理解	○		○	<ul style="list-style-type: none"> 本文内容に興味を持ち、受動態を用いた言語活動に積極的に取り組もうとしている。 本文の概要をつかむことができる。 (行, ワ, ノ)
8	Part 3の本文理解			◎	<ul style="list-style-type: none"> 英語を読んで、ゾウと人間の関係について理解することができる。 (ノ, 定)
9 本時	【文法(受動態)の応用】 主語+be 動詞+過去分詞(+by 人)を使って自分の身近な暮らしや社会の暮らしに関わる場面を説明しよう!		◎	○	<ul style="list-style-type: none"> 受動態を用いて自分の身近な暮らしや社会の暮らしに関わる場面を説明することができる。 受動態の文構造・意味を理解している。 (行, ワ, 定)

※ (行) = 行動観察, (ワ) = ワークシート, (ノ) = ノート, (定) = 後日定期考査

5 本時の指導

(1) 目標

○受動態を用いて自分の身近な暮らしや社会の暮らしに関わる場面を説明することができる。

(外国語表現の能力)

○受動態の文構造・意味を理解する。

(言語や文化についての知識・理解)

(2) 準備するもの

ピクチャーカード, ワークシート

(3) 展開

学習内容・活動等	○指導上の留意点 ●評価
1 挨拶	○全員で大きい声で挨拶し、英語学習の雰囲気を作る。
2 ウォームアップ ・ダヴィンチとモナリザの絵を見て、能動態と受動態の文を聞き、意味を確認する。	○最初にダヴィンチの肖像画を見せて、5で使用する+αの情報をできるだけ多く挙げさせる。 ○次にモナリザの絵を見せて、能動態の文と受動態の文を言い、同じ内容でも主語の違いによって態が変わることを認識させる。
3 本時の活動のねらいを把握する。 (1) 本時の学習活動を確認する。 主語+be 動詞+過去分詞(+by 人)を使って自分の身近な暮らしや社会の暮らしに関わる場面を説明しよう! (2) モナリザを例に能動態と受動態の文の説明を聞く。 (3) 練習問題を解く。 ・能動態の文を音読し、受動態に言い替える。 ・受動態の文になるように書き替える。	○ワークシートを用いて、be 動詞と過去分詞を確認する。 ○混乱しないように、初めは過去形と過去分詞の同型ものを避けて説明する。 ○be 動詞と過去分詞のみを変える練習問題をドリル形式で言い替えさせ、受動態の形の定着を図る。 ○時制はbe 動詞によって変わることを強調する。

<p>4 【Step 1】</p> <ul style="list-style-type: none"> 示された能動態の文を、「何（主語）がだれ（動作主）に何をされている（動詞）か」が分かるように書き替える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○受動態の文を書けるように、机間巡視をしてみている生徒には個別に対応する。 ○文をつくる際には、be 動詞の変化や文構造を意識するように伝える。 ●受動態の文構造・意味を理解している。 <p style="text-align: right;">【知識, 行・ワ・定】</p>
<p>5 【Step 2】</p> <ul style="list-style-type: none"> 4に指定された「場所」「時」「方法や状況」「理由」などの+αとなる情報を付け加える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○例外はあるが、たいていは基本の形の後ろに+αの情報を入れられることが分かるようにする。辞書を活用して例文を参考に考えられるようにする。
<p>6 【Step 3】</p> <ul style="list-style-type: none"> 5で書いた中から1文選び、その文を用いてストーリー仕立ての文章、もしくは説明文を3～4文でつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○受動態を用いた文を使って、話を構成できるように支援する。 ●受動態を用いて自分の身近な暮らしや社会の暮らしに関わる場面を説明することができる。 <p style="text-align: right;">【表現, ワ】</p>
<p>7 まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> 受動態を使って文をつくることができたか、自己評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○主語+be 動詞+過去分詞 (+by 人) を再度確認させる。 ○ワークシートの自己評価の欄に4段階で丸をつけ、最後にやってみた感想を書くようにする。
<p>9 挨拶</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○元気づく挨拶し、次時の意欲へつなげる。

【行=行動, ワ=ワークシート, 定=後日定期考査】